

第5学年 社会科学習指導案

授業日：令和6年10月11日(金)
会 場：大田区立池雪小学校
授業者：鎌田 美穂
学 級：5年1組 プレイルーム

1 小単元名 「これからの食料生産とわたしたち」(3時間)

2 小単元の目標

我が国の農業や水産業における食料生産について、第一次産業を営む従事者の減少や生産量・消費量の減少などの課題に対する取組や外国との関わりに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで持続可能な食料生産・食料確保が重要な課題であることや、食料生産に関わる人々の工夫や努力を理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習したことをもとにこれからの農業などの発展について考えようとする態度を養う。

3 小単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 第一次産業を営む従事者の減少や生産量・消費量の減少などの課題に対する取組や外国との関わりなどについて、各種の資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、食料生産の課題を理解している。 ② 調べたことを図表や文などにまとめ、持続可能な食料生産・食料確保が重要な課題であることや、生産者に関わる人々の工夫や努力があることを理解している。	① 第一次産業を営む従事者の減少や生産量・消費量の減少などの課題に対する取組や外国との関わりなどに着目して、問いを見だし、食料生産の課題について考え表現している。 ② 食料生産について学習してきたことを関連付けたり、総合したりして食料生産の課題について考え、学習したことをもとに、消費者や生産者の立場などから多角的に考えて、これからの農業や水産業の発展について考え表現している。	① これからの食料生産について、前小単元を想起して予想を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ② 学習したことをもとに、これからの農業や水産業などの発展について考えようとしている。

4 目指す児童像

本小単元では、食料生産の大単元のゴールとして位置付けている。本小単元で目指す児童像は、大単元の学習問題として設定した「日本の食料生産はこれからどのように変化していけばいいのだろう。」の問いに対して、食料生産の概要、米づくりの小単元や水産業の小単元、本小単元で調べてきたことを根拠にしたり、生産者や消費者、環境面などの様々な立場から多角的に考えたりして、これからの日本の食料生産の発展を考えることができる児童である。さらに、自分自身が食料生産の未来を考える当事者の一人だという自分事として、考えられる児童を目指す。これらを通して、研究主題の「社会とつながり未来を創る子供」の実現を目指していく。

5 教材について

本小単元は、食料生産の大単元を4つの小単元から構成し、第4小単元として位置付けている。本小単元の教材は、日本各地における野菜農家や果物農家、畜産農家を扱う。具体的には、鹿児島県の畜産、栃木県のいちご園、京都府の伝統野菜、山梨県のとうもろこし農家などを扱う。その際、第2小単元「米づくりの盛んな地域」や第3小単元「水産業の盛んな地域」で扱った課題に対する取組の見方・考え方をくり返し働かせて調べられるように第一次産業の課題に対する取組を資料化する。また、その取組が6次産業やブランド化、機械化などこれまで学んできた取組や外国との関わりを新しく資料化して提示していくことで、日本の食料生産における課題をなんとか解決したいという思いを感じ取れると考えた。さらに、第1小単元「わたしたちの生活と食料生産」で、扱った、人を再度出すことにより、切実感をもった学びとなるように工夫した。これらを通して、第一次産業の従事者の働きを捉え、日本の食料生産の発展を考えられるようにしていく。

6 小単元の構想

過程	子供の主体的な問題解決の側面から		社会生活の確かな理解の側面から	
	想定される主な「問い」	子供に働かせたい 見方・考え方	見方・考え方を 働かせる資料	子供が獲得できるよ うにしたい知識
学習問題	日本の食料生産は、これからどのように変化していけばよいのだろう。			
し ら べ る	<p><既習を振り返る問い> 日本の米づくりや水産業には、どのような課題があったのだろう。</p> <p><しらべる問い> 日本の野菜や果物、畜産は、米や水産業と同じような課題があったり、それに対して取り組んだりしているのだろう。</p>	← 課題や取組に着目して	→	<ul style="list-style-type: none"> ・米づくりや水産業の課題 ・米づくり・水産業の課題を解決する取組 ・日本の各食料生産の分布 ・野菜や果物、畜産の課題を解決する取組
ま と め る	<p><特色や意味を考える問い> これからの日本の食料生産に大切なことはなんだろう。</p>	←	→	<ul style="list-style-type: none"> ・米づくり、水産業の課題における取組 ・野菜や果物、畜産における課題に対する取組
つ な ぐ	<p><発展や関わり方を考える問い> 日本の食料生産は、これからよりよく変化するためには何を大切にするとよいのだろうか。</p>	←	→	<p>日本の課題は深刻であるからこそ、今のままではいけない。だから、これまで以上に生産者・消費者・国など、多くの立場が関わってみんなで支え合うように変化していくことが大事だと思う。消費者の一人である自分も日本の食料生産を支える一人として自覚をもっていきたい。また、できることは少ないと思うので、まずは、今回の学習のように知っていくこと、関心を持ち続けていききたい。</p>

7 研究内容との関連

(1) 主体的に問いを追究する工夫

①大単元を貫く学習問題の設定の工夫

食料生産の大単元を第1小単元「わたしたちの生活と食料生産」、第2小単元「米づくりの盛んな地域」、第3小単元「水産業の盛んな地域」、第4小単元「これからの食料生産とわたしたち」と4つの小単元から構成した。第1小単元において、食料生産の概要として、自然条件を生かして、日本は様々な食料を生産することができる国だと捉える。また、各地域の農業や水産業に従事する人々の姿を出すことで、人々の営みもあってすごい国だと想起できるようにする。一方で、第一次産業従事者の減少やゲストティーチャーの話を通して、日本の食料生産の良さと課題のギャップを捉えることで、我が国の食料生産の未来に問題意識を高めるとともに問いをもつことができるようにする。この問いを4つの小単元を貫く大単元の学習問題を位置づけ、大単元を通して追究し続けるようにすることで、主体的に問いを追究することができると考えた。さらに、学習問題を未来志向型にすることで、第4小単元において日本の食料生産全体を通して発展を考えることができるようにする。

③ 食料生産全体の発展を考える問いの設定

大単元を貫く学習問題「日本の食料生産は、これからどのように変化していけばよいのだろう。」と設定した。これからの食料生産の単元に入るときに、学習問題を見つめ直し、「日本の食料生産は、これからよりよく変化するために何が大切なのだろう。」に設定し直した。それに対する自分の考えを明らかにするために本小単元のまとめでは、「これからの日本の食料生産に大切なことは何だろう。」という問いを設定する。この問いに対し、「わたしは、△△の立場から〇〇が大切だと考える。なぜなら、□□だから。」と文型を示し、一人一人が自分の考えをもち、主体的に問いを追究できるようにする。また、これまで学んできたことを生かして生産者、消費者、環境面等、様々な立場から考えを明

らかにできるようにする。さらに、多様な考えをもった個々の考えを議論しながら追究していくことで、学習問題に考えを明らかにする際に、食料生産の発展をより多角的に考えることができるようにする。

③既習で働かせた見方・考え方を生かす学習計画

第2小單元位置づけた「米づくりの盛んな地域」の学習で働かせた見方・考え方を前小単元の「水産業の盛んな地域」の学習に生かす。「時間的視点」「空間的視点」「相互関係の視点」を応用する場面を意図的に計画することで、新たな社会的事象を学習する際にも多角的に事象の意味を捉えられた。そのことをさらに本小單元にも生かす。このように既習で働かせた見方・考え方を生かして学んでいくことで主体的に問いを追究できるようにしていく。

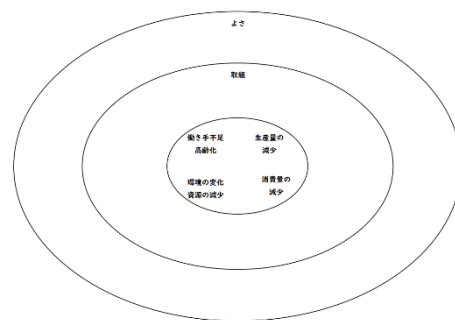
(2) 社会的事象の見方・考え方が働く学習活動の工夫

①着目する視点を明らかにした教材選定とジグソー学習

米や水産業の学習で課題に対する生産者や消費者、環境面等における各取組を学習している。本小單元で扱う野菜や果物、畜産農家も米や水産業において培った見方・考え方を働かせて調べられるように日本の第一次産業における課題に対する取組という着目する視点を明らかにして教材化を図る。また、いくつかの資料から子供が選択・判断して学習をすすめる、協働的な学習を促すジグソー学習を取り入れる。これら工夫をすることで第一次産業の生産者や消費者、環境面や外国とのかかわりなど、様々な立場から多角的に日本の食料生産全体の発展を考えられるようにする。

②食料生産の未来を考える同心円チャートの活用

子供一人一人が食料生産の発展を考える際に同心円チャートを活用することで食料生産の未来を見える化する。同心円チャートは右の図のように三重の円を活用する。日本の第一次産業の課題を一番内側の円に、真ん中の円には課題に解決のための米や水産業、野菜や果物、畜産の取組、一番外側の円には、結果をそれぞれ付箋でキーワードとして書き、色分けして活用していく。その際、課題や課題解決の取組や結果を関連付けたり、総合したりしながら、整理できるようにしていく。さらに、「よさ」が集まってきたところで教師が意図的に揺さぶりの発問をし、課題を解決するための取組にも課題があることに気付かせ、「だからこそ、何が大切なのか」について考えられるように展開することで学習問題の解決を図れるようにする。



(3) 子供の学びを確かにする評価の工夫

①形成的評価と相互評価の活用

次の学びに生かせる振り返りを行うためには、指導者による評価、子供の自己評価の他に、子供同士の相互評価が大切だと考える。そこで、自己の学びが確かなものになっているのか指導者は、形成的評価として毎時間子供の振り返りに対して適宜コメントを入れたり、声かけをしたり、価値付けたりすることで学びの質を確保していく。また、子供同士での相互評価をする時間を確保し、互いが協働的に学習問題を解決していこうという意欲を持続できるようにする。これらを通して、子供の学びを確かにしていく。

8 小単元の指導計画 (全時3時間)

過程	ねらい (数字は時数)	○主な学習活動 ●評価につながる学習活動 ◆問い ・予想される児童の反応	◎資料 □教師の手だて 【】 評価
前小単元まで	① 食料生産の課題について話し合い、大単元全体の学習問題を設定することができる。	○ゲストティーチャーから日本の食料生産の強みや課題についての話を聞いたり、第一次産業の課題について話し合ったりすることで学習問題を設定する。 ・日本の食料生産は、人々の営みや安全性や高品質だとわかった。 ・農林水産省の方の話から高齢化や働き手の減少は、とても深刻な問題である。 ・これからの食料生産は、どうなっていくのだろう。	◎ゲストティーチャー ◎第一次産業の働き手の減少 □食料生産の未来に目を向け、大単元を通して、解決できる問いを設定する。
		大単元の学習問題 日本の食料生産は、これからよりよく変化していくためには何が大切なのだろうか。	
	しらべる	① 日本の食料生産の課題についてどのような取組をしているか予想し、調べている。	○食料生産の概要で扱った日本地図に立ち返り、米や水産業以外の第一次産業に目を向ける。 ○野菜・果物・畜産の課題について話し合う。 ・米や水産業と同じように働き手が減少したり、高齢化がすすんでいたりしている。 ・生産量が減り、国内産の消費量も減っている。 ◆他の野菜・果物・畜産で働いている人たちは、課題に対してどのような取組をしているのだろう。 ○野菜・果物・畜産が取り組んでいる課題への取組を調べる。(ジグソー学習) ・野菜農家では、働き手不足や高齢化の課題に対して、機械やAIを使ったスマート化をすることで、働く人々を助けている。 ・畜産農家では、生産量や消費量の減少の課題に対して、高品質なものを研究して、ブランド化することでこれまで以上に美味しい物を消費者に届けている。 ・果物農家では、生産量や消費量の減少の課題に対して、海外の輸入品に負けないように努力し、多くの消費者を増やすために外国へ輸出している。
② 日本の食料生産の課題や取組の共通点を見つけ、これからの食料生産に大切なことを考える。		◆これからの食料生産に大切なことは何だろうか。 ○今まで学習してきたことを基に、同心円チャートを活用して整理し食料生産に大切なことを話し合う。 ・働き手の不足や高齢化の課題に対して、機械化やスマート化の取組をしている。その結果、作業効率をよくして働く人々を支えている。 ・消費量の減少の課題に対して、ブランド化をする取組をしている。ブランド化することで消費者がたくさん買ってくれるから消費量が増える。 ・生産者だけでなく、市や企業も協力している。 ・環境や資源減少の課題に対して、MSC 認証のように消費者が環境によい商品を選択することで、環境を守ることに繋がる。 ・働き手の人口が減っている課題に対して、機械化が大切。人が少なくても効率的にできる。 ・高齢化の課題に対して、6次産業の取組をすることで、人手や若い働き手が増えることに繋がる。 ○整理した同心円チャートについて話し合い、これからの食料生産に大切なことは何かを書く。 ・わたしは、生産者が機械化やスマート化をどんどん	◎思考ツール (同心円チャート) □同心円チャートは、課題・課題に対する取組・よさと3つ位置づけ、付箋を活用して、これまでの学習を整理することができるようにする。 □グループで同心円チャートを作成する。 □同心円チャートの結果に着目し、教師が問い返していくことでよさだけで
まとめる			

		<p>取り入れていくことが大切だと思う。なぜなら、このまま日本は人口が減っていくので、機械と人が協力することで、なるべく作業を効率化でき、少人数でも作業が成り立てると思ったから。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしは、生産者がおいしい商品をブランド化していくことが大切だと思う。おいしい商品であれば、消費者は選んで買うと思ったから。また、日本の質の高い商品は、外国にも人気なため、多くの消費量につながると思ったから。 ・わたしは、消費者が農業や水産業にかかわるイベントに積極的に参加していくことが大切だと思う。なぜなら、今回の社会の学習で初めて知ることが多かった。知ること興味をもつことができ、消費量にもつながってくると思ったから。 	<p>なく、まだ解決できていない課題があること、だからこそ、食料生産で大切なことを考えられるようにする。</p> <p>□文型を示し、一人一人が自分の考えをもち、主体的に問いを追究できるようにする。</p> <p>【知②】ノートやチャートから「持続可能な食料生産・食料確保が重要な課題であることや、生産者に関わる人々の工夫や努力があることを理解しているか」について評価する。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">つなぐ</p>	<p>③学習してきたことをもとに、生産者や消費者の立場から、多角的に考え、食料生産の発展について考える。</p>	<p>◆日本の食料生産は、これからよりよく変化していくためには何が大切なのだろうか。</p> <p>○前時で書いた自分の考えを基に話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機械化やスマート化のように機械と協力して作業していくことは人手不足の課題を解決するために必要になってくると思う。ただ、費用がかかるので、他者と共同で購入したり、国からの補助金は必要になったりしてくると思う。 ・作業を効率的にできるようにする機械化やスマート化は、高齢化という課題にとっても大事になってくると思う。楽に作業ができるし、情報を基に作業をすれば時間も短縮されるからだ。 ・人手不足や高齢化の課題を解決しても消費者が買わなければ、生産量も消費量も上げることができないので、わたしは、商品をブランド化して消費者に届けていくことが大切だと思う。おいしいものであれば、消費者が多く買うだろうし、輸出もできれば消費量も上がり、それに伴って生産量も上がることにつながると思ったから。 <p>○これまでの話し合いを基に振り返りを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一番大切というように順番で考えていた。みんなと話し合うことで、日本の課題は深刻であるからこそ、今のままではいけないと思った。だから、これまで以上に生産者・消費者・国など、多くの立場が関わってみんな支え合うように変化していくことが大事だと思う。消費者の一人である自分も日本の食料生産を支える一人として自覚をもっていきたい。また、できることは少ないと思うので、まずは、今回の学習のように知っていくこと、関心をもち続けていきたい。 <p>○大単元の振り返りを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食料生産について学習する前は、日本の食料生産に課題があることや生産者が色々な取組をしていることを知らなかったけど、学習した後は生産者を国や都道府県、研究者など様々な人が支えていることが分かった。消費者としてもできることはしていきたいと思います。 	<p>◎思考ツール（同心円チャート）</p> <p>□前時で書いた大切なことを基に違う意見でグループを組み、根拠を話し合えるようにする。</p> <p>□立場を明確に捉えられるように板書で整理していく。</p> <p>□振り返りの視点は、2つ。</p> <p>①話し合ったことを基に学習問題に対する考えを書く。</p> <p>②最初のゲストティーチャーの話聞いた時の自分と学習を終えての自分の考えの変化について書く。</p> <p>【主②】ノートや発言から「学習したことをもとに、これからの農業や水産業などの発展について考えようとしている。」について評価する。</p> <p>【思②】ノートや発言から「食料生産について学習してきたことを関連付けたり、総合したりして食料生産の課題について考え、学習したことをもとに、消費者や生産者の立場などから多角的に考えて、これからの農業や水産業の発展について考え表現しているか」について評価する。</p>

9 本時の学習(3/3時間)

(1) 本時のねらい

学習してきたことを基に学習問題について話し合い、これからの食料生産の発展について考える。

(2) 本時の展開

○主な学習活動 ●評価につながる学習活動 ・予想される児童の反応	◎資料 【評価】 □教師の手だて
<p>○前時を振り返り、めあてをつかむ。</p> <p>日本の食料生産は、これからよりよく変化するために何を大切にするとよいのだろうか。</p>	<p>◎米、水産、野菜、果物、畜産における課題 ◎各グループで作成した同心円チャート □既習事項を掲示し、調べてきたことを視覚化する。</p>
<p>○前時で書いた「これからの日本の食料生産は、どのようなことが大切か考えよう」に対して、自分の考えを基にグループや全体で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機械化やスマート化のように機械と協力して作業していくことは人手不足の課題を解決するために必要になってくると思う。ただ、費用がかかるので、他者と共同で購入したり、国からの補助金は必要になったりしてくると思う。 ・作業を効率的にできるようにする機械化やスマート化は、高齢化という課題にとっても大事になってくると思う。楽に作業ができるし、情報を基に作業をすれば時間も短縮されるからだ。 ・人手不足や高齢化の課題を解決しても消費者が買わなければ、生産量も消費量も上げることができないので、わたしは、商品をブランド化して消費者に届けていくことが大切だと思う。おいしいものであれば、消費者が多く買うだろうし、輸出もできれば消費量も上がり、それに伴って生産量も上がることにつながると思ったから。 ・水産業の資源の確保や環境のことを考えていくうえでも外国との関わりは欠かせないものだと思う。だから、MSC 認証の商品を買って環境へ貢献していきたい。 ・課題を解決する取組だが、取組をすることで新たな課題が出てくるので本当に難しい問題だ。 ・難しい問題だからこそ、生産者だけが取組をしていても解決は難しいと思う。だから、わたしたち消費者や環境のことみたいにいろいろな立場の人の力が必要になってくると思う。 	<p>□前時で作成した同心円チャートを基に自分の考えを共有する。その際、立場を明確にして議論できるようにする。</p> <p>□じっくりと考えられるようにグループの話し合い→全体共有→グループの話し合いをする。また同心円チャートを活用しながら、比較したり、関連付けたり、総合したりしながら話し合いができるように机間指導する。</p> <p>□教師は、議論をファシリテートし、子供たちが路線はずれないように声掛けをしたり、深く食料生産の発展を考えたりできるように問い返すキーワードを準備しておく。</p> <p>【主②】ノートや発言から「学習したことをもとに、これからの農業や水産業などの発展について考えようとしている。」について評価する。</p>
<p>○これまでの話し合いを基に振り返りを書く。</p> <p><学習問題に対する自分の考え></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一番大切というように順番で考えていた。みんなと話し合うことで、日本の課題は深刻であるからこそ、今のままではいけないと思った。だから、これまで以上に生産者・消費者・国など、多くの立場関わってみんなで支え合うように変化していくことが大事だと思う。消費者の一人である自分も日本の食料生産を支える一人として自覚をもっていきたい。また、できることは少ないと思うので、まずは、今回の学習のように知っていくこと、関心をもち続けていきたい。 <p><学習する前と後の自分の考えの変化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめは、日本の食料生産と聞くと遠い感じがして他人事のようなだった。でも、実際は、わたしたちは毎日食事をしている。それらから、身近に感じ、わたしたちの食料生産は多くの人々によって支えられていた。消費者も課題を考えていく一人だと思ふから、もっと自分事に考え続けていきたい。 	<p>□振り返りの視点は、2つ。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①話し合ったことを基に学習問題に対する考えを書く。 ②最初のゲストティーチャーの話を聞いた時の自分と学習を終えての自分の考えの変化について書く。 <p>【思②】ノートや発言から「食料生産について学習してきたことを関連付けたり、総合したりして食料生産の課題について考え、学習したことをもとに、消費者や生産者の立場などから多角的に考えて、これからの農業や水産業の発展について考え表現しているか」について評価する。</p>

<板書計画>

